

セッション責任者	ブレンサイン (Burensain)
セッション名	「日本の植民地支配下の東アジアにおけるメモリアル遺産」
趣旨	20 世紀前半期において、東アジアのほとんどの地域は日本の植民地支配を受けた。これは関係する国と地域にとって不幸な歴史であったことはいうまでもないが、日本の支配が敷かれていたこれらの地域においては、人と物の流れが加速し、日本の近代化の経験による各種の社会整備、調査記録や記念物が形として残された。また戦後 70 年間に於いて、これらのメモリアル遺産は東アジアを取り巻く複雑な関係性のなかでその存在が直視され、議論される場も多くなかったように思われる。本セッションでは、戦後の視点に立ってこれらのメモリアル遺産の歴史的広がりやそれがもつ現代的な意味を議論したい。
発表者、討論者、座長などの候補者の氏名と居住地	<p>発表者：①ユー・ヤン (Yu YANG) (コロンビア大学大学院/東京大学大学院) 「実像か幻像か：満洲の視覚資料の見方や眼差しの再考」</p> <p>②鈴木恵可 (東京大学大学院) 「再展示される歴史と銅像—台湾社会と植民地期の日本人像」</p> <p>③ブレンサイン(滋賀県立大学教授) 「満鉄と満洲国による農村社会調査について」</p> <p>討論者：マグダレナ・コウオジェイ (デューク大学大学院/早稲田大学大学院)</p> <p>張 思 (南開大学教授)</p> <p>司 会：李 恩民 (桜美林大学教授)</p>